

多文化コミュニケーション論

担当者	王 雪萍(オウ セツヘイ)				
年度	2019	授業コード	1540215001	科目ナンバリング	
対象年次	1~4	授業形態	-	単位数	2
時間割	春水 4	開講キャンパス	白山	教室	6 B 1 4 教室
主たる使用言語	日本語		実務教員科目		
授業科目区分					
授業回数					
受講対象学科					

【サブタイトル】

トランスナショナリズムという視点から見る多文化社会

【講義の目的・内容】

今日の世界はグローバル化と反グローバル化が同時に現れ、混迷している。しかし、交通手段の発展により、越境する人の移動は日増しに増え、もはや止めることができないであろう。この授業では、トランスナショナリズムという視点からグローバルな人の移動およびそれによってもたらされた影響について議論する。グローバルな視点で人の移動の影響について議論するため、本講義は日本、アジアにとどまらず、アフリカや南米など、これまで日本であまり触れていない地域についても学習の範囲として広げ、広い視野で世界各地で行われている人の移動についても議論する。

【学修到達目標】

国際社会学やトランスナショナリズムに関する基礎知識を身に付けてもらい、現在の国際社会における問題点を理解できるようにする。また戦後の人の移動、文化交流が、国際関係に与えた影響を理解してもらう上で、他者の立場に立って問題を分析し、対処する能力を身に付けてもらう。

【講義スケジュール】

秋学期

- 第1回 オリエンテーション、国際社会学、トランスナショナリズムに関する概説
- 第2回 日本における「越境者」
- 第3回 中国における国際移動
- 第4回 コリアン・ディアスポラ
- 第5回 フィリピンにおける国際移動
- 第6回 アセアンの域内外の国際人口移動
- 第7回 南アジアと人の越境
- 第8回 イスラーム世界と在日ムスリム
- 第9回 ヨーロッパにおけるトランスナショナリズム
- 第10回 南欧と大西洋の島々

- 第11回 グローバル時代の北米
- 第12回 ブラジルから見る南米の事例
- 第13回 オセアニアから見えてくるもの
- 第14回 アフリカにおけるトランスナショナリズム
- 第15回 まとめと総合討論

【指導方法】

春学期だけ開講。シラバスのテーマにそって国際社会におけるトランスナショナリズムに関連する事例を紹介し、関連問題について議論する。教科書とPower Pointを使つての授業となる。授業の内容について、授業中に質問や議論の時間を設けて、問題点を見つけて、議論できるように指導する。

【事前・事後学修】

授業内容を理解してもらうために、教科書の関連箇所を授業中に指示するので、必ず事前に読んでおくこと。毎回授業の後、しっかり復習し、教員の講義に対する質問・コメントを必ず提出してもらいます。また授業時に教員が指示した課題についても必ず締切までにToyoNet-ACEを通じて提出してもらいます。事前事後学習は毎週1時間程度必要です。

【成績評価の方法・基準】

期末試験 60%

平常点（授業中の議論への参加、感想文など） 40%

教科書を事前学習し、授業内容を聞いて理解した上で、授業中の議論に参加し、期末試験を受ければ、単位取得可能です。

【受講要件】

世界各国の文化、人の移動における興味がある学生なら、だれでも受講できる。

【テキスト】

西原和久・樽本英樹編『現代人の国際社会学・入門——トランスナショナリズムという視点』有斐閣、2016年、定価2300円。

【参考書】

モーリス・ヴァイス著、細谷雄一・宮下雄一郎監訳『戦後国際関係史——二極化世界から混迷の時代へ』慶應義塾大学出版会、2018年、定価3500円。

【関連分野・関連科目】

【備考】

【添付ファイル1】

【添付ファイル2】

【添付ファイル3】

【リンク】

